



アトリエの部屋

5月号



ゴールデンウィークも終わり、心地よい風を感じる季節となりました。お子様も新しい学年になって一カ月が経ち、環境の変化にも慣れられてきた頃でしょうか。

「まなびのアトリエ」の学習を通して生き生きとした表情がたくさん見られた、受講生の4月の様子をご紹介します。

<まなびのアトリエの特長>

- 1 「ことば」「すうがく」「サイエンス」「アート」の4領域を連携・協働させる独自のカリキュラム
- 2 1・2年児混合クラス運営
⇒1年生にはコミュニケーション能力、自主性の芽生えを
⇒2年生にはリーダー性の自然な育成を
- 3 子どもの自主性を尊重したグループ活動により、意見交換によるコミュニケーション能力や問題解決能力を育成
- 4 子どもそれぞれのペースを尊重した学びの進行
- 5 毎回、発表の機会を設けることにより、ディベート力を向上



○すうがく「もようをかこう」

「2年で一つの教育」と考え組まれたアトリエのカリキュラムでは、毎年定規とコンパスを使用するレシピがあります。今回は、その中でも定規を使用する学習です。

模様を描くにあたって定規の使い方を学んだら、早速ワークシートに沿って直線を引いていく活動へ。すぐに直線が引ける子どももいれば、定規や鉛筆に力が入り過ぎて鉛筆が滑らず眉間にしわを寄せる子どもも。特に、入学したばかりの一年生は苦労している表情を見せていましたが、縦、横、斜めと様々な方向に線を引く練習を重ねるうちに、次第に定規も鉛筆もスムーズに動かせるようになりました。その後は、様々な図形をなぞったり真似て描いたり、直線で自由に絵や模様を描いたり。前半の直線練習中は、集中しすぎて息を止めてしまう様子も見られた子どもたちですが、後半の活動中では個々に小さなつぶやき（アトリエでは、子どもの小さな発言を「つぶやき」と呼んで大切にしています）が。よくよく聞いてみると、図形を真似ている子どもは「ここは2から5まで、こっちは…」と全く同じ図形を描こうと、自然に、そして自分なりに考え目盛を読み始めた子どももいれば、「線の長さを工夫したら、強そうに見えるかな?」「定規だけで描いた街にしたら面白そう!」と自身の

世界観をどんどん広げていく子どもも。このように、単に定規の使い方を習得するだけでなく、様々な力を自分で刺激し伸ばすことができた、内容の濃い45分間となりました。



☆特に育みたい効果

創造力、表現力、
道具の扱い方、

★巧緻性、★発想力

←「直線」という言葉を学んだら、意識して描く活動へ。描いた後は、友達と言葉を交わしながら、図形に色を付けたり工夫を凝らしたり。

○アート「紙であそぼう」

先月のサイエンスでは紙の強度を学びましたが、今回は紙をオノマトペに合わせて動かしながら、実際の音や感触の違いを楽しみ、それを活かしてオーナメントを作成します。

まずは、普通紙や半紙などをオノマトペに合わせて動かす活動。「ぴんっ」を実際に表現してみると、「普通紙が一番固くて、風船が割れるみたいにバンッって感じがする。新聞紙や半紙は、破れそうで意外と破れない。」という意見。次の「くしゃくしゃ」「ぐしゃぐしゃ」の活動では「あれ？ さっきより音が小さくなってる！」という音の違いを発見したり、「さっきより柔らかくなって、気持ちいい。お布団みたい。」と感触の違いにも気づいたりすることができました。結果をワークシートにまとめたら、鳥のオーナメントを作る活動へ。型紙から鳥をつくり上げ、色々な折り紙をあてながらどんな鳥に仕上げるかイメージし、試行錯誤を重ねて…自分だけの素敵な小鳥が完成！すると、「名前はどうしよう？」と考えたり、「ピピピ」と言いながら鳥を動かし、友達や講師の肩に止まりに行ったり…と、男の子たちが嬉しそうにする光景が。実はこの鳥のオーナメント、女の子に負けないうらい男の子に大人気なんです！友達と寄り添って鳥が飛んでいるように動かしたり、会話をしたり…空想の世界に浸る、優しくおだやかな子どもたちの表情があふれた授業となりました。



☆特に育みたい効果

平衡性、表現力、
巧緻性、★創造力

↑紙を「体」で楽しんだら、次は「制作」で。